

大学院 理学研究科

数物系専攻・物質分子系専攻・生物地球系専攻

見えないものを見る



理学研究科は生まれ変わりました

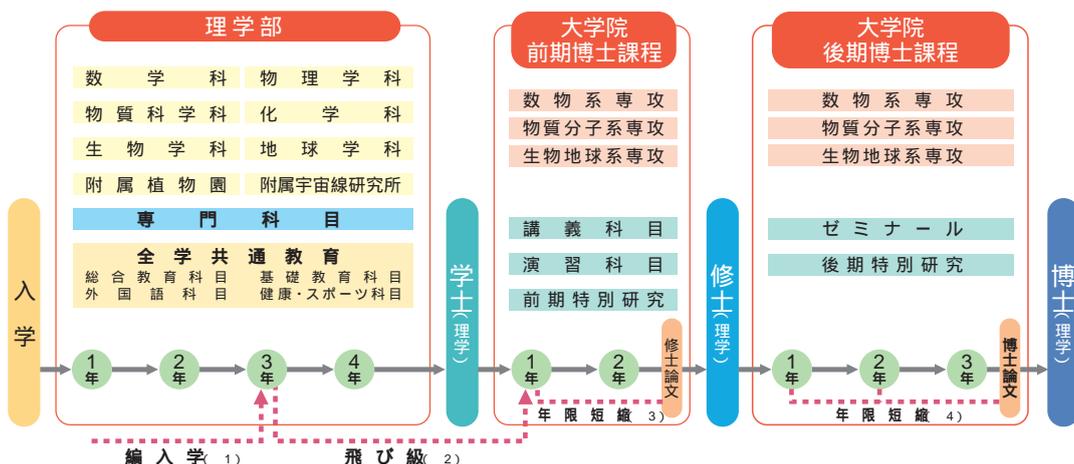
現代の先端の学問領域の変化に対応し、また、

理学研究科とはどんなところ？
大学院では最先端のテーマが与えられ、研究室の人達と共に自然界の謎を解明するために日夜奮闘しています。教員と大学院生は対等の立場から未知の課題に取り組みます。苦勞の末に見えないものが見えてきて、真理に向かって歩前進するとき、科学研究ならではの感動を味わうことができます。

21世紀の社会に広く貢献できることをめざして、研究科全体の再編を1998年4月に行いました。その結果、数学、物理、化学、生物、地質学の5専攻が広領域化され、数物系、物質分子系、生物地球系の3専攻にまとめられました。同時に、数理科学、先端材料科学、環境科学の学際的分野も設けられました。

学部3年生から前期博士課程に入学できる「飛び級」や、優れた研究業績をあげた大学院生は、修了年限を1・2年短縮して学位を取得する制度もあります。また、社会人入試、推薦入試などを通して、多様な人材を受け入れています。

大学院修了後の進路
大学の理学研究科は、全国にさきがけて最も早く設置された研究科の中で、優れた業績をあげ、次世代に対応できる幅広い視野と研究能力をもつ人材を輩出してきました。最近の10年間を見て、約220名が博士号を取得し、その4割は大学教員として全国で活躍しています。また、国立公立研究所や高等学校、高等専門学校の教員として活躍している卒業生を加えると、6割を超える者が研究、教育関係の仕事に携わっています。民間企業等で活躍する卒業生も多く、その能力が高く評価されています。



1:3年次への編入学ができます。(一般:数学科、物理学科を除く、社会人:物質科学科、地球学科) 2:成績優秀者は、3年次に大学院を受験することができます。
3:成績優秀者は、前期博士課程の在学期間(標準2年)を1年短縮することができます。 4:成績優秀者は、後期博士課程の在学期間(標準3年)を1・2年短縮することができます。